

2024年12月7日

京都教区 共同宣教司牧ブロック
担当司祭および信徒の皆さんへ

京都司教 パウロ大塚喜直

2025年 司教年頭書簡

すべての人と希望の巡礼者となろう

Let's join with all people as Pilgrims of Hope

2025年 司教年頭書簡の趣意書

2025年の通常聖年は、2024年12月24日（火）主の降誕の前日、聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」が教皇によって開かれ、聖年が開幕します。次いで、2024年12月29日（日）聖家族の祝日に、ラテランの聖ヨハネ大聖堂で聖なる扉が開かれます。2025年1月1日（水）神の母聖マリアの祝日に聖マリア大聖堂、1月5日（日）主の公現の日に城外の聖パウロ大聖堂の「聖なる扉」がそれぞれ開かれます。

京都教区では、大勅書の指示にしたがって、2024年12月29日（日）聖家族の祝日に、司教座聖堂である河原町教会で、司教が聖年開幕のミサ（10時30分）を捧げます。

巡礼は、聖年における基本的要素であり、教皇は来たる聖年においても「希望の巡礼者たち」が伝統的な、あるいは今日的な巡礼を通して、聖年を体験することを願っておられます。

京都教区の巡礼地は、京都司教座聖堂である「河原町教会」、「宮津教会堂」、「福知山教会」、「奈良教会」、「大津教会」、「鈴鹿教会」、「四日市教会」とします。

この「希望」をテーマにした聖年では、教会が世界に希望を示す重要な機会です。現代の混乱する状況で、教皇フランシスコは「希望はわたしたちを欺くことはありません」（ローマ 5・5）と述べ、キリスト者が信仰と希望を確認し、他人にも希望を伝えるよう呼びかけています。

わたしは2024年の年頭書簡でシノドスの教会の姿を求め、イエスの〈善いサマリア人のたとえ〉（ルカ 10・25-37）を手掛かりにした〈道〉と〈宿〉に注目した宣教の原点を探りました。シノドスの教会は、世界に対して閉じこもるのではなく、世界と《ともに歩む》ために、現実にも目を向け、今を生きる人々との出会いと対話の中で、その姿が見えてくると思っています。

来年の年頭書簡では、教皇フランシスコの聖年の呼びかけを受け、世界や日本の〈道〉と〈宿〉の現状を踏まえて、わたしたちは、どこで、だれと希望を分かち合うべきかについて考えてみました。

以下が、2025 年年頭書簡の目次です。

1. キリストは希望の 錨^{いかり}
2. 戦後 80 年、核のない世界をめざして
3. ウクライナからの避難民の支援
4. ガザ地区の住民への支援
5. 能登半島地震の被災者とともに
6. 在留カードを持たないこどもたちのために
7. 冤罪^{えんざい}を受けた人々の支援
8. 社会のバリアの解消
9. 人生を彩る高齢者との巡礼
10. 高齢者介護従事者の理解と支援
11. 不登校生徒への支援
12. ヤングケアラーのこどもたちに愛を
13. 家族崩壊のこどもを守る
14. 格差社会と若者の貧困
15. 依存症者の支援
16. 総合的エコロジーへの招き
17. 多国籍信徒で築く次世代の教会
18. 希望の星、聖マリア

紙面の都合で限られたテーマしか扱えませんが、京都教区の皆さんも「希望の巡礼者」になるためのヒントを得て、「救いの門」であるイエス・キリストとともに巡礼を続けられることを願っています。

*2025 の小教区司教訪問、各地区・ブロック合同堅信式ミサ、行事等の予定は京都教区のホームページ《司教スケジュール》をご覧ください。

以上。